

Page 1 A 14 year old girl showing the picture of cluster headache

Prof. Hartmut Göbel

Kiel Headache and Pain Center, Germany

Page 2 Learning Issues

小児における群発頭痛の表現型

群発頭痛における外傷の影響の可能性

群発頭痛に対する客観的な診断検査の使用

小児の頭痛における社会心理的乖離

Page 3 First Stage

Page 4 病歴

14歳女兒、両親 教師（数学、物理学）

2012年11月23日：学校で遊んでいるときに倒れて顔と膝を打った

2012年11月30日：急性の頭痛発作で救命救急科を受診し、診断のために入院

Page 5 頭痛の表現型

救命救急科のレポートに頭痛の表現型の情報なし

激しい頭痛とだけ記載

救命救急医は入院前にピリトラミド（合成麻薬性鎮痛剤；ジフェニルプロピルアミン系）を投与

Page 6 身体所見

意識清明、時間、人、場所、状況

脳神経 正常、頸椎 関節可動域フリー

神経学的所見・一般身体所見 正常、右膝：触診で圧痛のある血腫

## Page 7 画像

頰椎MRI：正常 頭部MRI：正常

## Page 8 初期インプレッション

退院 外来治療継続

診断：脳震盪後の頭痛

ジピロン（メタミゾール；解熱鎮痛薬）屯用

痛みのダイアリー記載

## Page 9 痛みのダイアリーの評価

とても激しい頭痛、左眼窩周囲、持続時間 7-15分

毎日20時頃に出現、治療 ترامadol（オピオイド系）20錠

## Page 10 First Stage Questions

現段階で、この症例の3つの鑑別診断を考慮できますか？

この症例について知りたい他の情報がありますか？

あるとしたら、どんな初期の検査を考慮しますか？

## Page 11 写真

## Page 12 Second Stage

## Page 13 2回目の入院治療（2013年1月7-16日）

地方の小児病院：

診断：外傷後群発頭痛

治療：酸素、スマトリプタン 10mg点鼻

リラクゼーションエクササイズ、理学療法

Page 14 Third Stage

Page 15 頭痛の表現型

入院 University Childrens hospital (2013年1月16-28日)

患者と両親の状態：

歩行は松葉杖でのみ可能、とても激しく毎日起こる左眼窩周囲の痛み発作、持続時間 10-20分

流涙、鼻漏、左眼の熱い爪のような感覚、動揺、上半身の運動、発作は規則的に20時30分

学校で悪い点数だった後に1回の発作

Page 16 画像

頚椎MRI：正常、頭部MRI：正常、下垂体MRI：正常、頭蓋外ドプラエコー：正常、

副鼻腔CT：正常、鼻骨X-Ray：正常

Page 17 追加検査

心電図：正常、長時間心電図：正常、耳鼻科コンサルト：正常 聴覚誘発電位 (AEP)：正常、

脳波：正常、ポリリオ血清：陰性、腰椎穿刺：正常

Page 18 社会心理的経歴

14歳の学生、フレンドリー、協調性がある、症状の詳細な説明

耐えられない痛み、ひどく負担のある家庭の日常生活

良い学生、多くの趣味、うつはなし、不安もなし

高いアカデミックな向上心、高い活動レベル

母と娘は、病気がこれまでの治療で十分に深刻に取らえていないと信じていた

Page 19 学校での行動

酸素ボトルは持ってきていた

母は同じ学校で教えていて、発作が起きたら呼ばれる

発作時、母は担当クラスを空けなければならない、その後もそのクラスは放置される状況にある

娘の病気の一因となっている精神的な要因を母は受け入れようとしていない

## Page 20 小児病院での初期インプレッション

群発頭痛

酸素吸入、スマトリプタン点鼻（持続時間は10分へ減少）、ベラパミル、プレドニゾン（変化なし）

## Page 21 Third Stage Questions

症例について知りたい他の情報があるか？

あるとしたら、どんな他の検査を考慮するか？

## Page 22 Fourth Stage

## Page 23 入院治療（2013年2月13-25日）

Kiel Headache Center

頭痛の治療のために娘は父と共に現れた

ゴール：行動の観察、診断の確認、治療プラン

## Page 24 行動の観察 I

毎日の発作は20時、持続時間10分、発作の開始と終了が唐突

患者は座って、体の上半身をリズムカルに曲げ、目を打ち、声を出して泣く（ターザンのように）

同時に酸素吸入をする

## Page 25 行動の観察 II

左眼は能動的に閉じている、赤くならない、涙を流さない、鼻の症状がない、過換気、動揺

## Page 26 疑わしい診断

二重盲検 ニトログリセリンテスト ( 群発頭痛を誘発 ) :

1日目 : ニトログリセリンのスプレーかプラセボ

2日目 : プラセボかニトログリセリンのスプレー

Page 27 ニトログリセリンテスト1日目

患者の舌への噴霧のおよそ6分後に典型的発作が起こった

Page 28 ニトログリセリンテスト1日目 : 非盲検化

プラセボ

Page 29 娘と父へ伝える

娘は群発頭痛が存在しないことをみとめた

不安の表現、彼女は学校で何を言うべきか

認知行動療法 ( CBT ) の計画、薬物中止、さらに発作はなかった

Page 30 最終診断

適応障害、過換気症候群、群発頭痛は除外

Page 31 小児における群発頭痛

とても稀、10歳以降の子供の症例報告、成人と同様のフェノタイプ

エピソードチックフォーム、成人と同様の薬物に反応

Page 32 文献